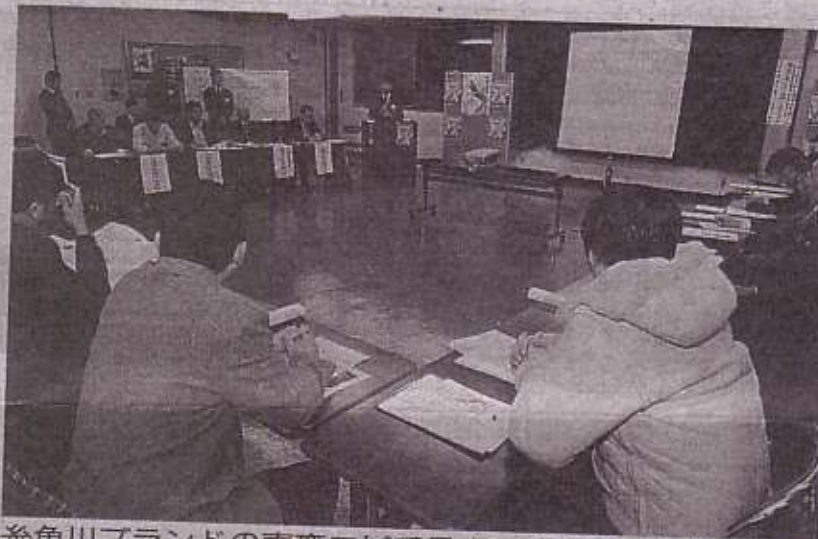


南蛮エビで日本一目指せ

全国発信を企画

関係機関と初会議

糸魚川 J C



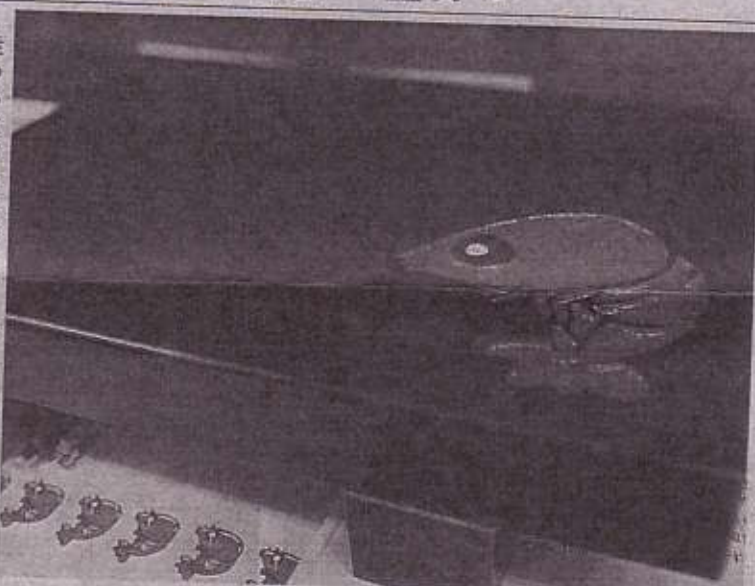
糸魚川ブランドの南蛮エビで日本一を目指すため、知恵を出し合った

今年、奴奈川青年会議所(猪又直登理事所から改称した糸魚川青)長、糸魚川 J C)は一年

間かけ、糸魚川産南蛮エビ(和名・ホッコクアカエビ)のブランド化と全国発信を企画している。二十六日夜、糸魚川商工会議所で県、市、上越漁業協同組合、観光協会など関係機関と第一回会議を開いた。

「甘い南蛮エビ日本プロジェクト」と銘打ち、活動主体として同 J C 内に NEXT まちづくり室、ハイパーレジャー創造委員会、NEXT いといがわ発信委員会を組織した。「ほくたちは糸魚川を日本一にしたい。明るい豊かなまちを目指して」と方針を掲げる。

南蛮エビキャラクターを使い、石材店の協力で刺し身用の器も試作



鮮やかな赤色と形が赤トウガラシ(南蛮)に似ていることから、下越地方における呼称として親しまれている南蛮エビ。県内四漁協で年間五百トの水揚げがあり、うち百三十七トを占める上越漁協は濃緑色の卵を抱いた

エビを「ひすい娘」と名付けて販売している。同 J C は味の良さ、通年で入手できる点、視覚的なインパクト、可能性を考慮し、日本一を目指すための素材として提

案。県内の漁協を中心にした県南蛮エビブランド化推進協議会が平成十八年度から先行して取り組んでいるため、科学的データやレシピ集などの蓄積は十分にあるという。今後、土産やグッズなどの商品開発を呼びかけることも、東京都内での P R も計画している。三月には決起集会を開き、試食や新メニューの紹介などで本格的に活動をスタートさせる見込み。

猪又理事長は「若さゆえに突破できる思い切りの良さを武器に、糸魚川を引っ張っていきたい。(南蛮エビは)まちのことを考えて出した答え」と思いを話した。

糸魚川 J C 教室が月六日ルマンかされるレッスとも午と、ら同三象は同で定員保険料三千元円となは同スクール8・2

郷土のお正月遊びに歓声

川地区 民館



ど昔ながら

業再開 キー場 理が完了

時間早い同五時で全面通行止めを解除した。発生地点から約二・五キロ上